

スピーカーアキュライザーの導入(30)
—アナログ対デジタル(14)—

1. 始めに

前報(29)に引き続き、アナログ音源とデジタル音源の比較を行ってみます。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴方法

スピーカーアキュライザーSPA-7の設定条件は前報(2)に述べたとおりとしますが、ケーブルの接続条件を前報(14)のとおり替えています。

その後、配信の方は、LAN iSilencer の導入(12)で報告しましたように LAN iSilencer の追加と、LAN ポート、USB ポート、HDMI ポートへのダミー端子の装着ならびに USB ケーブルへの NRF-005T 処理などを行っています。

試聴音源はバッハのチェンバロ協奏曲に固定し、アナログ盤と STAGE+から選択します。

アナログ盤

ARCHIV 28MA 0020

J.S.バッハ チェンバロと弦楽のための協奏曲 BWV 1052・1053・1054

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

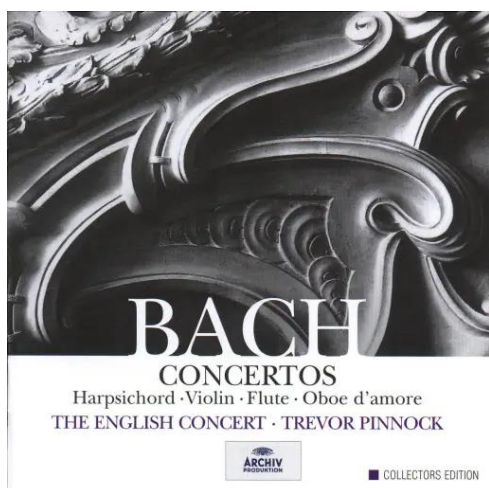
STAGE+

J.S.バッハ：チェンバロ協奏曲集、ヴァイオリン協奏曲集 他

イングリッシュコンサート，トレヴァー・ピノック

ヨハン・セバスティアン・バッハ	チェンバロ協奏曲 第1番	ニ短調	BWV 1052
ヨハン・セバスティアン・バッハ	チェンバロ協奏曲 第2番	ホ長調	BWV 1053
ヨハン・セバスティアン・バッハ	チェンバロ協奏曲 第3番	ニ長調	BWV 1054
ヨハン・セバスティアン・バッハ	チェンバロ協奏曲 第4番	イ長調	BWV 1055
ヨハン・セバスティアン・バッハ	チェンバロ協奏曲 第5番	ヘ短調	BWV 1056
ヨハン・セバスティアン・バッハ	チェンバロ協奏曲 第6番	ヘ長調	BWV 1057
ヨハン・セバスティアン・バッハ	チェンバロ協奏曲 第7番	ト短調	BWV 1058
ヨハン・セバスティアン・バッハ	2台のチェンバロのための協奏曲	ハ短調	BWV 1060
ヨハン・セバスティアン・バッハ	2台のチェンバロのための協奏曲	ハ長調	BWV 1061
ヨハン・セバスティアン・バッハ	2台のチェンバロのための協奏曲	ハ短調	BWV 1062

- ヨハン・セバスティアン・バッハ 3台のチェンバロと弦楽のための協奏曲
第1番 ニ短調 BWV1063
- ヨハン・セバスティアン・バッハ 3台のチェンバロと弦楽のための協奏曲
第2番 ハ長調 BWV1064
- ヨハン・セバスティアン・バッハ 4台のチェンバロと弦楽のための協奏曲
イ短調 BWV1065
- ヨハン・セバスティアン・バッハ
フルート、ヴァイオリン、チェンバロ、弦と通奏低音のための協奏曲
イ短調 BWV 1044
- ヨハン・セバスティアン・バッハ
オーボエ、ヴァイオリン、弦と通奏低音のための協奏曲 ハ短調
- ヨハン・セバスティアン・バッハ
オーボエ・ダモーレ、弦と通奏低音のための協奏曲 イ長調
- ヨハン・セバスティアン・バッハ
ヴァイオリン、弦楽と通奏低音のための協奏曲 第1番 イ短調
BWV1041
- ヨハン・セバスティアン・バッハ
ヴァイオリン、弦楽と通奏低音のための協奏曲 第2番 ホ長調
BWV1042
- ヨハン・セバスティアン・バッハ
2つのヴァイオリン、弦楽と通奏低音のための協奏曲 ニ短調 BWV1043



3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

アナログ盤の方は、チェンバロ協奏曲第1番・第2番・第3番のみの収録であるのに対し、STAGE+の方はチェンバロの演奏を含む曲の集成版です。

このように多くのチェンバロ協奏曲がある背景は、バッハがライプツィヒのコレギウム・ムジクムの指揮をしており、その演奏会のために作曲され、その多くは、バッハの旧作、あるいは他の作曲家たちの作品を編曲したものであると考えられているようです。従って聴いているとどこかで聴いた曲と思われるものがあり、例えば、原曲がヴァイオリン協奏曲であったり、オーボエ・ダモーレ協奏曲であったりということです。

アナログ盤と STAGE+の比較は、チェンバロ協奏曲第 1 番・第 2 番・第 3 番で実施し、チェンバロ協奏曲第 4 番以降は、STAGE+としての音質を確認していきました。

チェンバロ協奏曲第 1 番・第 2 番・第 3 番のアナログ盤は、中低域に厚みがあるウォームトーンで、音の分離より協和に重心があります。チェンバロもソフトで優しい音です。

チェンバロ協奏曲第 1 番・第 2 番・第 3 番の STAGE+は、歯切れよく、見通しの良い音です。チェンバロも透明度の高い音でアンサンブルとも良く調和しています。アナログ盤のウォームトーンに対して、クールな表現になります。アナログでは、ZANDEN Model 120 の設定を TELDEC と逆相にしていますので、STAGE+の場合も、Brooklyn DAC+で位相反転させますと、定位がしっかりして音の焦点がってきます。

チェンバロ協奏曲第 4 番以降は、音質的には上記と同様で、ピノック指揮イングリッシュコンサートの歯切れのよい演奏がクリアな音質で展開されます。

どこかで聴いたことがあるかと感じると、チェンバロ協奏曲に編曲される前の原曲があります。例えば、2 台のチェンバロのための協奏曲ハ短調 BWV 1062 は対応する 2 台のヴァイオリンのための協奏曲があります。

3 台のチェンバロと弦楽のための協奏曲第 1 番と第 2 番は初めて聴くものです。

4 台のチェンバロと弦楽のための協奏曲はどこかで聴いたことがあるなと思ったらヴィヴァルディの調和の靈感の『4つのヴァイオリンのための協奏曲』RV580 が原曲でした。

フルート、ヴァイオリン、チェンバロ、弦と通奏低音のための協奏曲イ短調、オーボエ、ヴァイオリン、弦と通奏低音のための協奏曲ハ短調、オーボエ・ダモーレ、弦と通奏低音のための協奏曲イ長調では、チェンバロは通奏低音を受け持ち、前面には出てきません。フルート、オーボエ、オーボエ・ダモーレが、柔らかい音を聴かせてくれます。

ヴァイオリン、弦楽と通奏低音のための協奏曲第 1 番と第 2 番、2つのヴァイオリン、弦楽と通奏低音のための協奏曲ニ短調では、チェンバロは通奏低音を受け持ち、前面には出てきません。ヴァイオリンがガット弦らしい音を聴かせてくれます。2つのヴァイオリン、弦楽と通奏低音のための協奏曲ニ短調はお馴染みの曲で

す。これらの解説が以下のサイトに記載されています。バッハのチェンバロ協奏曲がこれほど多数あり、原曲との関係など、大変勉強になりました。

[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%81%E3%82%A7%E3%83%B3%E3%83%90%E3%83%AD%E5%8D%94%E5%A5%8F%E6%9B%B2_\(%E3%83%90%E3%83%83%E3%83%8F\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%81%E3%82%A7%E3%83%B3%E3%83%90%E3%83%AD%E5%8D%94%E5%A5%8F%E6%9B%B2_(%E3%83%90%E3%83%83%E3%83%8F))

4. まとめ

音源の種類と再生ルートが異なる音源が、アナログも STAGE+も、一様にスピーカーアキュライザー導入以降、音質が向上して様変わりしています。

STAGE+の方は、一連の仮想アースや LAN iSilencer や LAN や PC の空きポートへの NRF-005T などの処理で、クリアーで滲みのない音質になっています。

以上